

平成10年度 市内遺跡発掘調査に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

Hanada
浜田遺跡

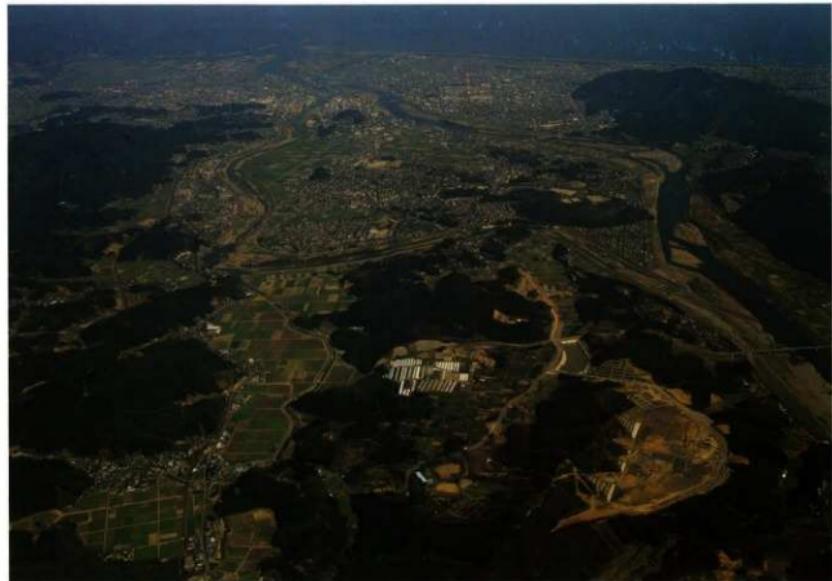
Sakamine
迫嶺遺跡

Houraisan-zennryuji
蓬萊山善龍寺跡

Kamitatarata
上多々良箱式石棺群

Yashirogahara
社ヶ原遺跡

Amori
雨下遺跡(第4次)



1999.3

延岡市教育委員会

序 文

延岡市は宮崎県の北部に位置する、人口約12万5千人の中核都市として、県内随一、東九州地域においても有数の工業集積地であります。その一方では豊かな自然と歴史を併せ持った都市でもあります。近年は、産業の停滞・人口の減少が市の抱える大きな課題となっています。

延岡市は、平成6年の「地方拠点都市指定」を契機に、大きく変化しております。県北地域の大きなネックとなっていた道路問題も、国道10号延岡道路の着手や東九州自動車道の延岡・都農間に施工命令が出されるなど着実に進展を見せています。また、念願であった4年制大学「九州保健福祉大学」も今春の開学を目前にしております。

こうした地域振興を背景に、大規模な公共事業や民間開発が増加しています。このような状況に対応するため、市教育委員会では開発事業等の計画に際して、埋蔵文化財の確認調査等を実施しているところであり、本書はその報告書であります。

本書が埋蔵文化財への理解を深める一助になることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり県教育委員会文化課をはじめ、地権者の方々にご協力を得ました。記して感謝いたします。

平成 11年 3月31日

延岡市教育委員会

教育長 牧野 哲久

例　　言

1. 本書は、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて、平成10年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 本年度は、浜田遺跡・上多々良箱式石棺群・追懶遺跡・社ヶ原遺跡・蓬萊山善龍寺跡・雨下遺跡(第4次)の発掘調査を実施した。
3. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作製については、山田聰、尾方農一、高浦哲、甲斐千恵美、敷石サヨ子、野脇信子、船石涼代、山本敬子があたった。
4. 現場での写真撮影は各担当者があたり、遺物の写真撮影は尾方、高浦があたった。
5. 蓬萊山善龍寺跡出土の鬼瓦刻印は、齊藤義朗が解説を行った。
6. 方位は磁北を向いている。また本書に使用したレベルは、すべて海拔高である。
7. 出土遺物は内藤記念館で保管しており、今後展示公開の予定である。

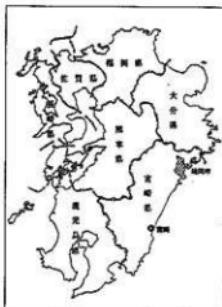


Fig 1 延岡市位置図

本　文　目　次

第1章 はじめに

1.はじめに	1	2. 調査の記録	3
--------	---	----------	---

第2章 調査の記録

1. 浜田遺跡	3	2. 上多々良箱式石棺群	6
3. 追懶遺跡	10	4. 社ヶ原遺跡	11
5. 蓬萊山善龍寺跡	12	6. 雨下遺跡(第4次)	16

挿　図　目　次

Fig 1 延岡市位置図	Fig 2 平成10年度市内発掘調査遺跡分布図	1
Fig 3 浜田遺跡位置図	Fig 4 浜田遺跡調査区配置図	3
Fig 5 浜田遺跡土層柱状図	Fig 6 浜田遺跡第1トレンチ実測図	5
Fig 7 浜田遺跡自然木実測図	Fig 8 上多々良箱式石棺群位置図	6
Fig 9 上多々良箱式石棺群調査区配置図	Fig 10 上多々良箱式石棺群第4号石棺実測図	7
Fig 11 上多々良箱式石棺群第11号出土土器実測図	Fig 12 上多々良箱式石棺群出土遺物実測図	9
Fig 13 追懶遺跡位置図	Fig 14 追懶遺跡調査区配置図	10
Fig 15 社ヶ原遺跡位置図	Fig 16 社ヶ原遺跡調査区配置図	11
Fig 17 蓬萊山善龍寺跡位置図	Fig 18 蓬萊山善龍寺跡調査区配置図	12
Fig 19 蓬萊山善龍寺跡基壇跡平面図	Fig 20 蓬萊山善龍寺跡出土鬼瓦拓影実測図	14
Fig 21 蓬萊山善龍寺跡出土遺物実測図	Fig 22 雨下遺跡(第4次)位置図	16

表　目　次

第1表 平成10年度市内発掘調査遺跡一覧表

第2表 報告書抄録

写　真　図　版　目　次

PL. 1 浜田遺跡近景	3	PL. 2 浜田遺跡水田面検出状況	4
PL. 3 浜田遺跡自然木検出状況	4	PL. 4 浜田遺跡土層堆積状況	4
PL. 5 上多々良箱式石棺群第4号石棺	7	PL. 6 上多々良箱式石棺群第11号地点出土土器	8
PL. 7 上多々良箱式石棺群出土遺物	9	PL. 8 追懶遺跡調査風景	10
PL. 9 社ヶ原遺跡土層堆積状況	11	PL. 10 蓬萊山善龍寺跡基壇跡検出状況	13
PL. 11 蓬萊山善龍寺跡階段跡検出状況	13	PL. 12 蓬萊山善龍寺跡出土遺物	15
PL. 13 雨下遺跡(第4次)吉黒屋木簡調査風景	16	PL. 14 雨下遺跡(第4次)調査風景	16

第Ⅰ章 はじめに

1. はじめに

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、東経131度32分45秒～131度50分20秒、北緯32度43分32秒～32度29分11秒の間にあり、面積は238.77平方キロメートルである。人口は約12万5千人で、宮崎県北部の中核都市であり、県下最大の工業集積地となっている。

これまで工業都市として認識されてきた本市であるが、延岡藩主内藤氏より寄贈いただいた能面を活用した「内藤家伝来の能面展」や「のべおか天下一薪能」等の開催により、県内外から大きな反響を呼ぶとともに、文化都市というイメージが定着した。

現在延岡市は、大きく変わろうとしている。念願だった4年制大学「九州保健福祉大学」は、今春の開学が目前に迫ってきている。また、県北地域の大きなネックとなっていた道路問題も「国道10号延岡道路」の着手、東九州自動車道の延岡・都農間に施工命令が出されるなど、大きく前進している。

このような状況の中で、公共・民間を問わず開発事業が増加し、それに伴い埋蔵文化財の調査も増大している。

今年度の調査は、これらの開発事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために確認・試掘調査を行い、下記の7箇所で実施した。また今井野遺跡群(第4次)は、年度末調査であることから割愛させていただき次年度報告とする。



Fig.2 平成10年度 市内発掘調査遺跡分布図

番号	遺跡名	所在地(延岡市)	調査原因	調査面積	調査期間
①	浜田遺跡	浜町字浜田	大規模店舗造成	72.5m ²	平成10年5月27日～6月8日
②	上多々良箱式石棺群	岡富町字上多々良	区画整理事業	147.5m ²	平成10年6月3日～7月13日
③	追櫛遺跡	大貫町字追櫛	個人住宅	83.1m ²	平成10年9月8日～9月16日
④	社ヶ原遺跡	稲葉崎町字社ヶ原	宅地造成	180.0m ²	平成10年10月21日～10月30日
⑤	蓬萊山善龍寺跡	山下町字上ノ坊	公園整備	48.5m ²	平成10年11月2日～11月10日
⑥	雨下遺跡(第4次)	天下町字雨下	市道改良工事	28.7m ²	平成10年12月17日～12月22日

第1表 平成10年度 市内発掘調査遺跡一覧表

2. 調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会	
	教育長	牧野 哲久
	文化課長	大石 孟
	文化課長補佐兼振興係長	酒井 修平
	文化財係長	渡邊 博吏
庶務担当	文化課主査	赤野 昭男
	文化課主査	宮野原 八代子
	文化課主任主事	熊谷 俊一
調査担当	文化課主任主事	山田 聰
	文化課主事	尾方 農一
	文化課主事	高浦 哲
	文化課主事	齊藤 義朗
発掘作業員	安藤登美子、小野愛子、甲斐カツキ、甲斐カズ子、久保利男、酒井 巍、 酒井清子、酒井正志、武田ヨシ子、林田裕子、早田あつ子、松崎辰磨、 柳田イサ子、柳田時子	
資料整理	甲斐千恵子、久米田有美、敷石サヨ子、野脇信子、船石涼代、 山本敬子	

発掘調査の事前協議等において、市区画整理課、市街路公園課、市土木課に御協力をいただいた。
また、土地所有者の宮崎県民生活協同組合、荒木武夫氏、日向総合建設株式会社などの方々には、
調査の過程において便宜をはかっていただいた。記して感謝します。

第Ⅱ章 調査の記録

1. 浜田遺跡

所 在 地 延岡市浜町5114番地外
調 査 原 因 店舗建設
調 査 期 間 980527～980608

調査面積 72.5m²
担 当 者 山田
処 置 破 壊

(1)位置と環境

浜町は、延岡市街地の中南部にある愛宕山裾から500m程東側にある小字名「浜御殿」と呼ばれる微高地を中心集落として開けた地区で、東側には国道10号延岡バイパスが南北に通っている。この地域では、近世有馬氏時代、播州赤穂藩から日吉、山本、片伯部、上田、大山といった製塩技術者集団による製塩作業が行われていた。有馬家中延岡城下屋敷付絵図(1670～1682頃)によると、浜川は川幅が広く海岸線に並行するように南北に流れ南側の沖田川と河口部で繋がり、所謂ラグーンや後背湿地が形成されており、これらの自然地形を利用して製塩作業が営まれていたとみられている。その後、新田開発等によりその土地利用は変化し、昭和23年の空撮写真資料では、集落地を除き一面の水田地帯となっている。昭和40年代になって、国道10号延岡バイパス建設工事により周辺景観は一変し、現在、店舗などの商業用地や宅地、畠地などに転用されている。調査地は、その国道10号線浜町交差点の北東側に位置し、標高は約3mを計る。

(2)調査の概要

調査対象地は、畠地、水田、ハウス、住宅地、工場として利用されているため、調査箇所は休耕畑に設定することとした。この畠は、国道10号延岡バイパス建設事業に伴う盛土が実施されたため、地区内に点在する水田面との比高差が生じている。このため、調査はユンボによるトレント調査法で行うとともに、トレントの壁面に入力で排水溝を掘削し、トレント内の地下水位面を下げながら精査する方法をとった。

調査の結果、地表下約2mまでは、客土による盛土層(2・3層)が認められ、その直下から昭和40年代以前の水田面(4層)が確認された。この水田面の標高は約1mを測り、水田区画の状況から昭和23年撮影の航空写真にみられる水田と同一のものとみられる。この下層は



Fig. 3 浜田遺跡位置図(1/15,000)

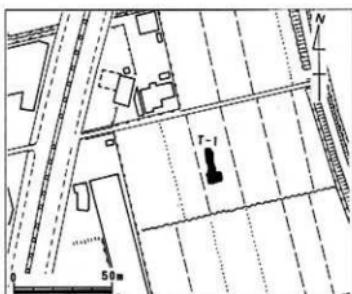


Fig. 4 浜田遺跡調査区配置図(1/5,000)



PL. 1 浜田遺跡近景

暗青灰色粘質土（5層）、標高約0mからは暗灰褐色粘質土（6層）が検出され、下位は砂及び小礫が混じり、この部分から旧浜川の堆積物とみられる雜木片が検出された。最下層（7層）は旧浜川の河原石層が確認され大量の湧水がみられた。

(3) 検出遺構

昭和40年代以前の水田面。



PL. 2 浜田遺跡水田面検出状況

(4) 出土遺物

自然木

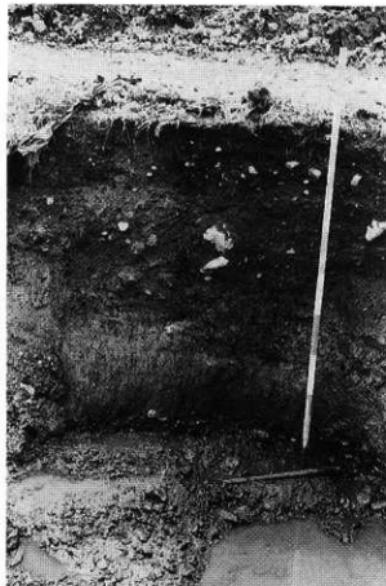
耕地整理（昭和初期）以前の旧浜川堆積物



PL. 3 浜田遺跡自然木検出状況

(5)まとめ

今回の調査では、埋蔵文化財は確認されなかったが、浜川の歴史的変遷を知るうえでの資料が得られ、周辺地域における古環境解明の糸口になるものと期待される。



PL. 4 浜田遺跡土層堆積状況

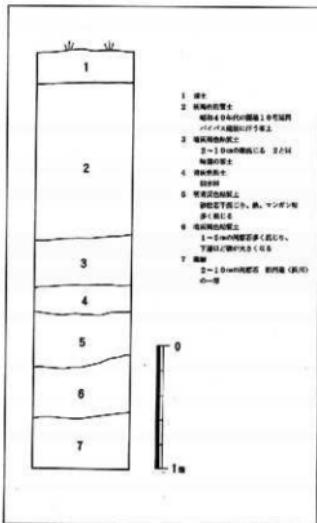


Fig. 5 浜田遺跡土層柱状図(1/40)

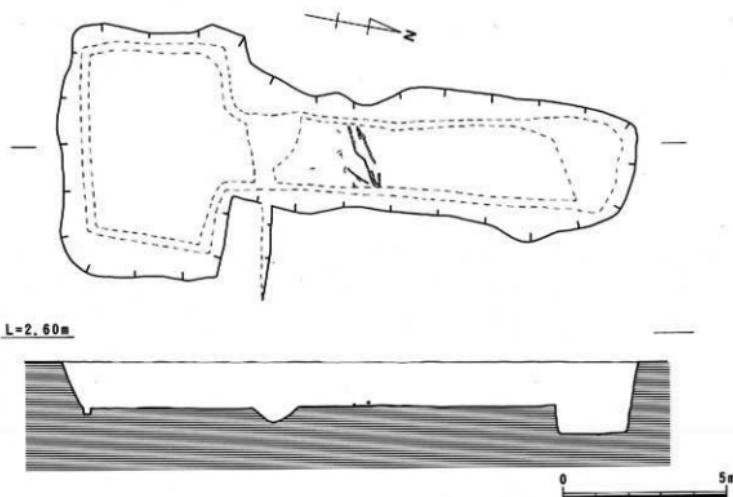


Fig 6 浜田追跡第1トレンチ実測図 (1/150)

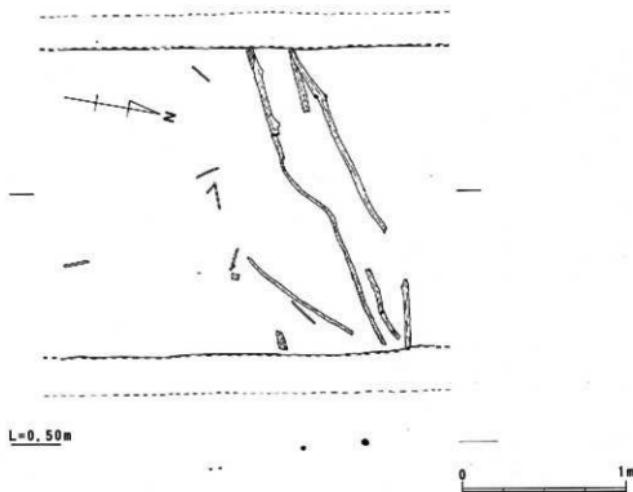


Fig 7 浜田追跡自然木実測図 (1/30)

2. 上多々良箱式石棺群

所 在 地 延岡市岡富町841-1 外
調 査 原 因 区画整理事業
調 査 期 間 980603～980713

調査面積 147.5 m²
担 当 者 尾方・高浦
処 置 本調査(協議)

(1)位置と環境

市北部の高い丘陵地帯から、南の五ヶ瀬川に向かって派生する舌状丘陵の端部付近に位置する。周辺には古墳時代の遺跡が数多く確認されている。調査丘陵の裾部には2基の箱式石棺（1号・2号石棺）が露出しており、上多々良箱式石棺群として古くから知られていた。さらに南に下ると3基の横穴があったとされ、勾玉2個出土したと伝えられている（県指定延岡古墳群第34号墳）。調査区の東側に隣接する上多々良遺跡（平成9年度調査）では、円墳1基等が確認されている。さらに東の坊内山丘陵上では2基の箱式石棺が検出され、人骨片、刀片、硝子製小玉1個等が出土し、県指定延岡古墳群第6号墳に指定されていたが、墓地造成の際に破壊され、現在は所在地すら不明になっている。また遺跡の西には、昭和43年に調査された伊勢ノ前古墳が所在している。この他に古川窯址、赤追遺跡等の遺跡も点在している。



Fig. 8 上多々良箱式石棺群位置図
(1/15,000)

(2)調査の概要

調査に先立ち現地の踏査を行い、10ヶ所ほどのマウンドが確認されていた。丘陵の南側から第1～11地点(Fig.の丸数字)とし、調査は各マウンド部に直交する4本のトレチを基本に、計47本を設定した。

第1地点からは直径約20cmの丸石とその周辺から高环脚部等の土器が集中して確認された。

第2地点では箱式石棺(3号石棺)を一部確認し、また、大甕や高环の脚部等の土器が集中して確認されている。

第3地点は遺構・遺物は確認されなかった。

第4地点は箱式石棺(4号石棺)が確認され、今回の調査では、この棺のみ開棺し、鉄鎌1本が出土している。

第5地点では盛土と思われる土層を確認したが、主体部の発見には到らず、高环片が出土している。

第6地点は電柱の直近で、箱式石棺(5号石棺)が確認された。本調査では、電柱の処置を考慮する必要がある。

第7地点は半分以上は破壊を受けているが、盛土と思われる土層を確認し、土器片が出土している。



Fig. 9 上多々良箱式石棺群調査区配図(1/5,000)

第8地点は後世の攪乱で遺構・遺物は出土していない。

第9地点は遺構・遺物は確認されなかった。

第10地点は遺構は検出されなかったが、まばらではあるが、広範囲に土器片が出土した。

第11地点は盛土の確認がされ、剣状の鉄製品が1点出土している。本調査の際には、主体部の検出が期待される。

(3) 検出遺構

① 箱式石棺

前述のとおり3基の箱式石棺（第3～5号石棺）が検出されている。すべて緑泥片岩製である。第3・5号石棺は蓋石の一部を確認し、詳細は本調査に委ねることにした。第4号石棺のみは、調整資料の収集を目的に棺内の精査を行った。

第4号石棺は表土の約6cm下から検出されている。盗掘坑は確認できなかったが、蓋石は小さく割れ棺内に埋没していた。また、直近の蓋石の接合が見られなかったことから一度、開棺された可能性が考えられる。また、長・短辺ともに、土圧によって上部が棺内に傾斜していた。長さ162cm、幅46cmで、北東-南西に向いている。胸部付近で切っ先を北東に向け、鉄鎌が1点出土している。

② 土器集中部

第1地点と第2地点の2ヶ所で検出されている。第1・第2地点とも標高約45mで、丘陵南側で最も高い地点にあたる。両地点の距離は約18.8mを計る。

第1地点は、直径約20cmの丸石を中心に、北東約10cmに小型丸底、西約15cmに高環脚部、南西約31cmに、くびれを呈する土器底部が出土している。祭祀的な性格が考えられるが、詳細については周辺地を含め本調査に委ねる。

第2地点は、箱式石棺から東約3mの地点で大甕や高环の脚部が出土している。石棺との比高差は約60cmを計る。第1地点を含め周辺の遺構検出を行い、遺構の性格を明らかにする必要がある。

(4) 出土遺物

① 土器

1～3は第1地点出土の土器である。1は小型丸底である。赤褐色の色調をなしている。外面は風化が激しく、調整は不鮮明であるが、一部ヘラ磨きの痕跡が



Pl. 5 上多々良箱式石棺群第4号石棺

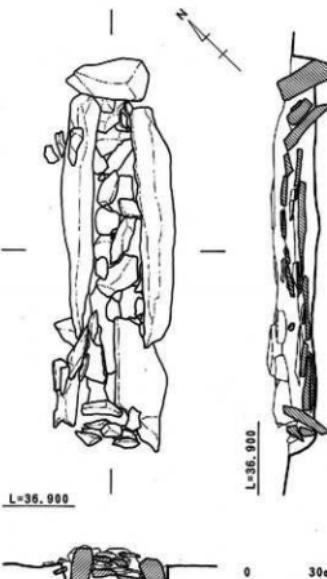


Fig.10 上多々良箱式石棺群第4号石棺実測図(1/20)

みられる。2は高壺脚部と思われる、底径は12.4cmである。風化で調整は不明である。胎土は砂粒が多くむ。3は高台状をなす土器底部である。底径は5.6cmで側縁のくびれ部が大きい。暗橙色を呈す。

4～5は第2地点の出土土器である。4は高壺脚部で壺部は約1/4残存している。反転復元の底径は16.25cmである。壺部は外湾気味に膨らみをもって広がり、端部は、つまれて踏ん張る。円孔は1ヶ所が確認できる。外面は橙色を呈し、縦方向のヘラ磨きが行われている。内面は横方向の刷毛目との調整がみられる。5も高壺の脚部と思われる。約1/4の残で、反転復元の底径18.7cmである。壺部はハの字形に広がっている。調整は内外面ともに横方向のナデである。

6～8は第9地点出土の土器である。6はくびれ気味の平底の土器底部で底径は3.25cmである。外面は橙色を呈している。風化のため調整は不明である。内面は灰色を呈し、縦方向の刷毛目がみえる。7は尖底気味の底部で、ゆがみがみられる。内外面とも黄橙色を呈し、外面は横ナデ後、縦方向のヘラナデ、内面は不定方向からの刷毛目がみえる。8は小型甕で、口縁部が強く外反する。口径は28.8cmである。外面は赤褐色を呈し、口縁部には上から下へ斜め方向のナデがみられ、所々にへらによる調整もみられる。胴部は横方向のナデと思われるが、風化のため不鮮明である。内面は灰黒褐色を呈し、口縁部は上から斜め方向へのナデ、頸部周辺は横方向のナデがみられる。

②鉄器

9は第4号石棺から出土したもので、唯一の副葬品である。斧箭式で鉋先はやや丸みをもつ。長さ13.5cm、重さは45gを測る。

10は第11地点から出土した鉄劍で切先と墓端部を欠く。一部木質が残存する。残存長34cm、重さ385gを測る。

(5)まとめ

今回の確認調査は、前年度の上多々良遺跡に引き続き区画整理事業に伴うものであった。前年の調査では、丘陵上から円墳1基と、丘陵下の水田からプラントオペル等の結果から中世期の水田跡の存在が考えられる。

今年度の調査では、箱式石棺3基、土器集中部2ヶ所、人的盛土を4ヶ所を確認した。出土土器等から弥生時代終末期～古墳時代と考えられる。

延岡市で確認されている石棺は、使用している石材で大きく2つの地域に分けられる。1つは五ヶ瀬川以南及び五ヶ瀬川北岸の古川古墳まで、阿蘇溶結凝灰岩を使用している。もう1つは古川古墳から下流の五ヶ瀬川以北で、千枚岩が使用されている。

今回の調査地点は、その2つの地域の境界となる地点にある。延岡市の古墳史を考えるのに重要地点にあたり、本調査時のより慎重な調査が望まれるとともに岡富・古川町に計画されている区画整理事業について関係各所との充分な協議が求められる。

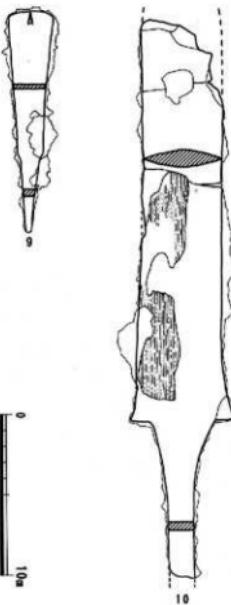
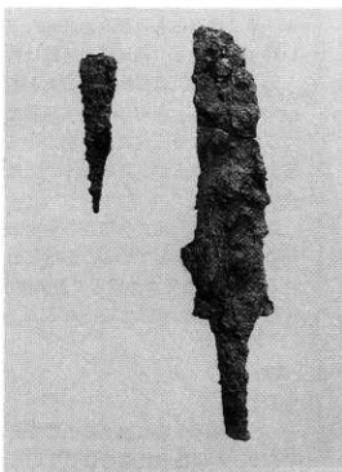


Fig. 11 上多々良箱式石棺群第11地点
出土鉄器実測図(1/3)



PL. 6 上多々良箱式石棺群第11地点出土鉄器

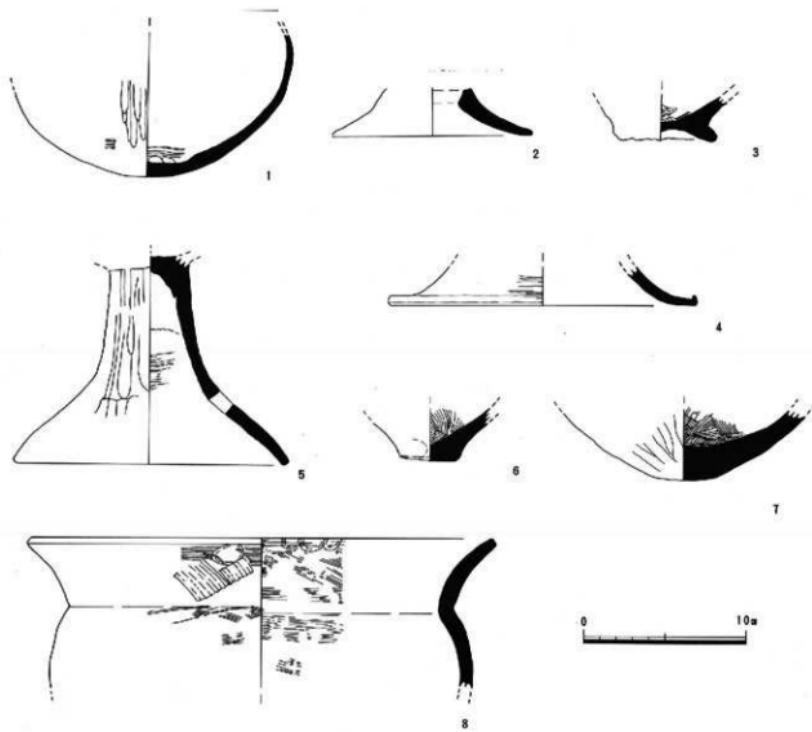
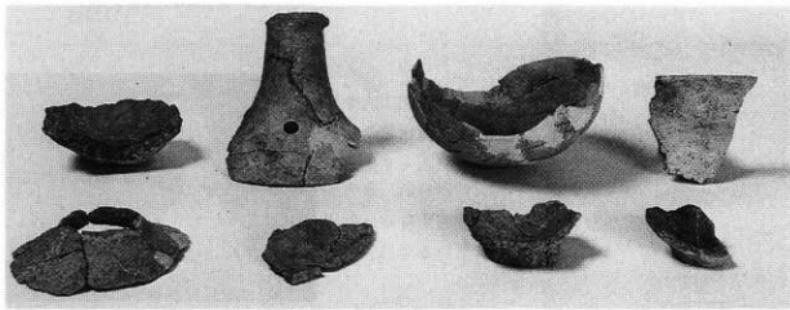


Fig12 上多々良箱式石棺群出土遺物実測図(1/3)



PL. 7 上多々良箱式石棺群出土遺物

3. 迫嶺遺跡

所在地 延岡市大貫町5丁目2011, 2012, 2013
調査原因 個人住宅
調査期間 980908～980916

調査面積 83.1 m²
担当者 尾方・高浦
処置 破壊

(1)位置と環境

当遺跡は、国史跡南方古墳群（大貫支群）の立地する丘陵の一角にあたり、標高は約15.5mを測る。ここは国史跡第24号墳に隣接している。第24号墳は県北最大の横穴式石室を主体部とする円墳で、これまでの調査により鉄鎌2本、須恵器破片、丸玉1個が出土している。

北東約40mには、同支群唯一の前方後円墳である浄土山古墳（第39号墳）が立地しており、調査により鉄鎌、鉄刀、鉄劍、蛇行劍、甲冑、竹櫛などが出土しており、延岡における首長墓として重要な古墳が立地している。

また、浄土山古墳付近一帯は、大貫貝塚（縄文時代早期）として知られている。



Fig13 迫嶺遺跡位置図(1/15,000)

(2)調査の概要

発掘調査は重機によるトレント調査を採用し、土層観察と遺構検出に主眼を置き実施した。調査地周辺には多数の遺跡が点在しており、調査地にも何らかの遺構の存在が考えられることから、トレントを拡張し調査を実施した。

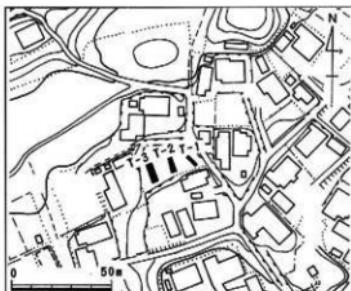


Fig14 迫嶺遺跡調査区配置図(1/5,000)

(3)検出遺構

特になし。

(4)出土遺物

特になし。

(5)まとめ

調査において地山の確認を試みたが、検出には至らず周辺の環境状況や土層堆積状況から、盛土によって拓かれた地ではないかと考えられた。

遺跡の数多く点在する丘陵が、開発によって徐々に失われ、またその環境が大きく変わっている今日、その対応策を早急に考えなければならない。



PL. 8 迫嶺遺跡調査風景

4. 社ヶ原遺跡

所在地 延岡市稻葉崎町5丁目716番地12 外
調査原因 宅地造成
調査期間 981021～981030

調査面積 180m²
担当者 尾方・高浦
処置 破壊

(1)位置と環境

遺跡の所在する稻葉崎町は、市の北部の祝子川、北川の下流域に広がる平野部である。稲作や畑作が盛んなところであるが、近年は住宅化が進んでいる。

調査地は祝子川の支流、蛇谷川の解析谷の東側にそってのびる低丘陵上に位置する。東側の水田地帯との比高差は約12mである。周辺には古墳時代の遺跡が数多く分布している。東約200mに県指定延岡古墳群21号墳、東南約650mには市内最大規模の前方後円墳22号墳、南約500mに10～12号墳、更に南に約600mには19号墳を含む樺山古墳群が所在している。



Fig. 15 社ヶ原遺跡位置図(1/15,000)

(2)調査の概要

調査地に12ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。表土の約10～40cm下でアカホヤ火山灰層の良好な堆積を確認した。トレンチを面的に広げ精査を行うが、遺構遺物は検出されなかった。その後、各トレンチを2m程掘り下げたが、遺物等は発見されず、調査を終了した。

(3)検出遺構

特になし。

(4)出土遺物

特になし。

(5)まとめ

市西部の南方地区以外で、アカホヤ火山灰層の良好な堆積が確認されたのは初めてである。遺構の検出、遺物の出土も大きく期待されたが、上記のように空振りに終わつたが、周辺に古墳等が多いことから、調査地の丘陵上には遺跡の存在が充分に考えられる。今後とも周辺の開発の際には、慎重な調査が必要である。

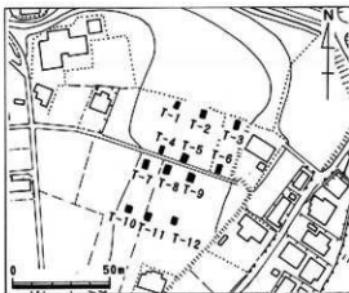


Fig. 16 社ヶ原遺跡調査区配置図(1/5,000)



5. 蓬萊山善龍寺跡

所在地 延岡市山下町1丁目3875-1
調査原因 公園整備
調査期間 98.11.02~98.11.10

調査面積 48.5m²
担当者 尾方・高浦
処置協議

(1)位置と環境

善龍寺は、延岡市の中心部、市街地を一望する今山の中腹に位置していた。真言宗の寺院として養老元年(717年)に創建されたと言われ、延岡地方において最古の寺院の一つと考えられている。今山の頂部には今山八幡宮が鎮座しており、延岡城鎮守社として崇敬されており、明暦2年(1656年)には藩主有馬安純が梵鐘を寄進している。この鐘に刻まれている銘に「日州延岡」の文字があり、「延岡」の名が見られる最古の史料である。

明治期に入り、廃仏毀釈運動の高揚とともに延岡藩内でも明治3年~翌4年にかけて合寺・廢寺が実施され、善龍寺は、明治4年(1871年)に廢寺となった。この際に山門が千光寺に移築したと考えられている。この山門は、取り壊しに伴い平成8年度に調査を行ったが、それを裏付ける成果は得られなかった。大武寺に安置されてる寛文8年作仁王像2体もこの頃移されたと考えられている。



Fig17 蓬萊山善龍寺跡位置図 (1/15,000)

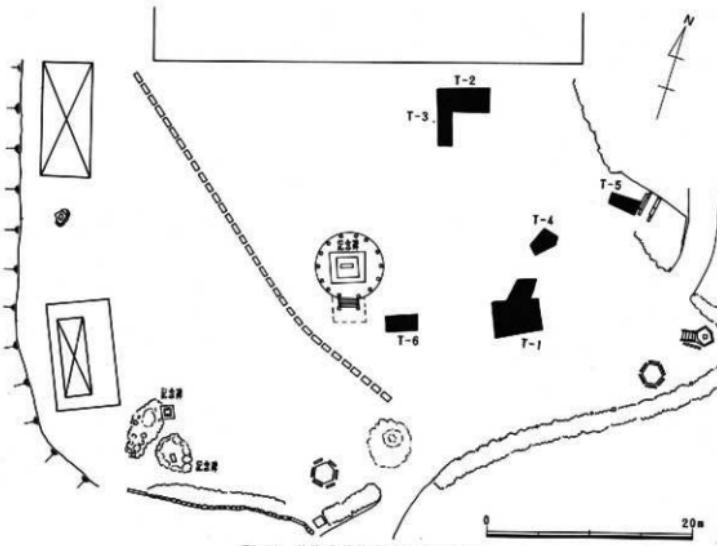


Fig18 蓬萊山善龍寺跡調査配置図

(2) 調査の概要

予定地の踏査において、基壇跡の一部、階段跡が容易に確認できた。遺構検出に主眼をおき面的な調査を行った。また同時に包含層の遺存状況を確認するために、調査地内に4箇所のトレンチを設定し調査を行った。

(3) 検出遺構

- ①基壇跡 阿蘇溶結凝灰岩(灰石)の根石と、拳大の河石による裏込めを検出した。
- ②階段跡 阿蘇溶結凝灰岩(灰石)を長方形に加工していた。長さ50cmから1.5m、幅20cmである。
- ③石灯籠 トレンチ3から検出された。
- ④焼土面 トレンチ3から検出され、火災によるものと考えられる。

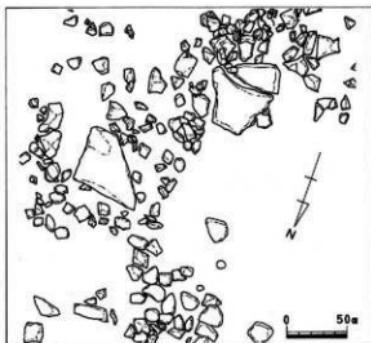


Fig. 19 蓬萊山善龍寺跡基壇跡平面図(1/40)



PL. 10 蓬萊山善龍寺跡基壇跡検出状況



PL. 11 蓬萊山善龍寺跡階段跡検出状況

(4) 出土遺物

鬼瓦、瓦片、陶磁器片が多數出土している。1は16枚花弁の菊紋瓦である。制作年代・制作者名の刻銘があり、裏面右に「源治元年／甲子三月中向」裏面左に「當城下御用瓦師／頭取／吉岡久治兵衛房常七拾歳作之」とある。表面には「吉岡新右衛門」の刻印がみられる。この表面の文字は千光寺山門の丸瓦表面の刻銘と同様のものである。

2～9は表にまとめた。

No	器種	口径・器高・底径(cm)	文様・技法の特徴	製作地	製作年代	備考
2	染付・皿	(10.5)		龍泉窯系	15c	
3	染付・皿	(13.5)		肥前	1660～1680年	
4	染付・碗			中国	17c後～18c	焼繼
5	染付	(8.4)		肥前	17c～18c	火災を受けている
6	染付・碗	9.2 6.3 3.4		肥前	18c後～19c	
7	染付・小碗	(10.4)		美濃系	18c後～19c	
8	土師・小皿	10.4 2.6 5.9	手捏ね整形	在地	不明	
9	土師・小皿	11.0 2.6 5.6	手捏ね整形	在地	不明	内外面にスス付着

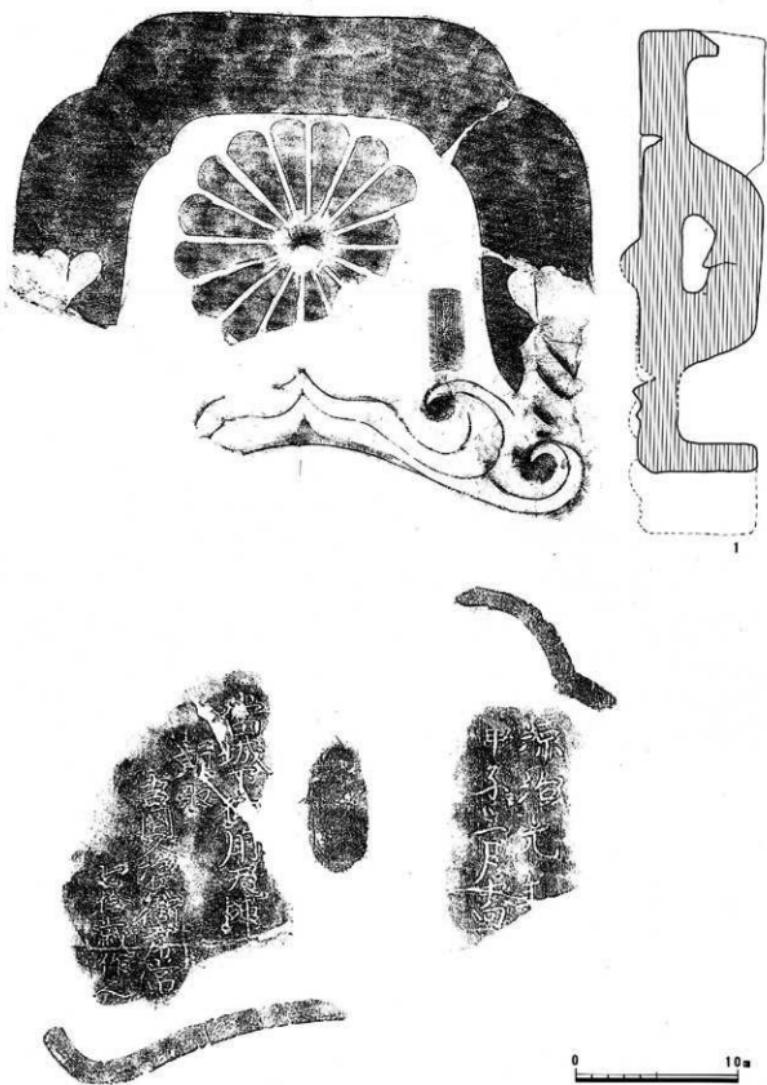


Fig20 蓮葉山菩薩寺跡出土瓦拓影測圖(1/3)

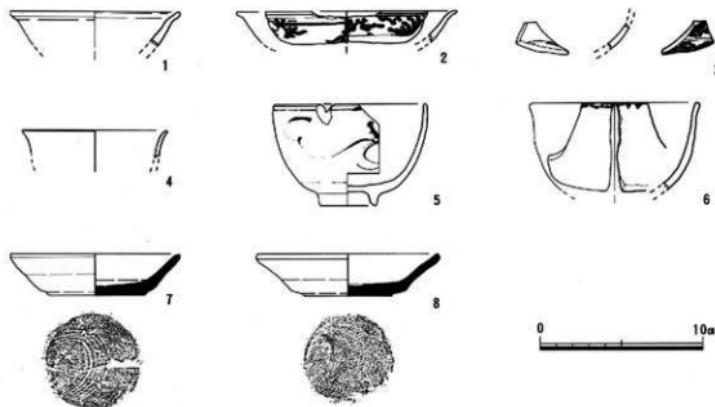
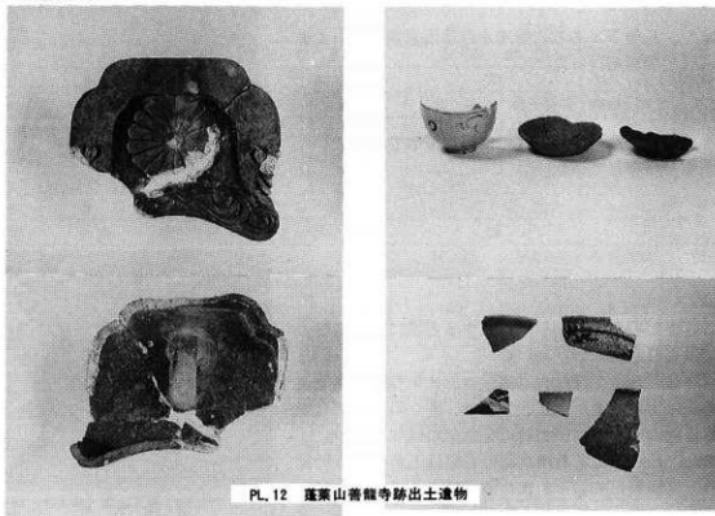


Fig. 21 蓬萊山善龍寺跡出土遺物実測図(1/3)

(5)まとめ

今回の調査において善龍寺が実在していたことを裏付ける成果が得られた。しかし千光寺の山門、大武寺の仁王像について詳細は不明であり、今後の文献調査に大きな期待が寄せられる。

今回の公園整備計画は若干の掘削と盛土による芝生整備であることから、遺跡の保存をふまえた整備協議を進めたいと考える。



Pl. 12 蓬萊山善龍寺跡出土遺物

6. 雨下遺跡(第4次)

所在地 延岡市天下町612~614
調査原因 市道改良工事
調査期間 981217~981222

調査面積 28.7 m²
担当者 尾方・高浦
処置破壊

(1)位置と環境

当遺跡は、標高約13.5mを測る舌状丘陵の先端部にあたり、眼下に五ヶ瀬川、野田地区の田園風景を望むことができる。この丘陵には、国史跡南方古墳群第10号墳が立地している。当遺跡の南には、第1号墳~9号墳の立地する丘陵があり、以前は連続した丘陵であったと思われる。この丘陵は、平成9年度に調査を行ったが、遺構の確認はされなかった。(第1次~3次)

また、丘陵下には近世時代に築かれた岩熊用水路が暗渠型に整備されており、延岡平野へと水田用水を供給している。

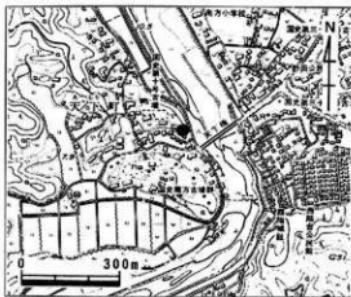


Fig. 22 雨下遺跡(第4次)位置図(1/15,000)

(2)調査の概要

調査は、丘陵2ヶ所にトレンチを設定し、土層観察と遺構検出に主眼をおいた。トレンチ1を設定した箇所は開削による削平を受けていた。トレンチ2は、10号墳に隣接する箇所に設定をし、調査を行った。10号墳は、隣接する住宅建築時に一部削平を受けており、トレンチは旧地形が残っていると思われる地点に設定した。

また、丘陵下にある岩熊用水路は漏水期であったため入管し調査を行った。



PL. 13 雨下遺跡(第4次)岩熊用水路調査風景

(3)検出遺構

水路のほとんどが、現代の構築物で改変されていたが一部分残存していた。

(4)出土遺物

特になし。

(5)まとめ

これまでの調査により、点在する古墳に伴う遺構の確認はされていない。

現在この丘陵を含む天下地区は、大学整備・高速道路整備による工事が増加しており、多くの古墳が立地する丘陵の保存について対応を急がねばならない。

また、丘陵下にある用水路の石垣は工事による影響から一部崩壊しており、また危険であることから写真による記録保存の措置をとった。



PL. 14 雨下遺跡(第4次)調査風景

報 告 書 抄 錄

ふりがな	はまに	かみたたら	さこみね	やしきがほら	せんりゅうじ	あもり
書名	浜田遺跡 上多々良箱式石棺群 追嶺遺跡 社ヶ原遺跡 蓬萊山善龍寺跡 雨下遺跡(第4次)					
副書名	平成10年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第21集					
著者名	山田聰、尾方農一、高浦哲					
編集機関	延岡市教育委員会					
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1					
発行年月日	1999年3月31日					

所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
浜田遺跡	ゆめおかし ほまたら 延岡市浜町 字浜田	452033	32° 33' 23"	131° 41' 02"	980527 980608	72.5 m ²	大規模店舗造成	
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
散布地	近世	無	無					
所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
上多々良	ゆめおかし じょうとうら 延岡市富町 字上多々良	452033	3012	32° 35' 00"	131° 39' 30"	980603 980713	147.5 m ²	区画整理事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
古墳	古墳	箱式石棺・祭祀遺構 円墳	鐵族・鐵劍・弥生土器 須恵器		県史跡隣接地			
所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
迫嶺遺跡	ゆめおかし おのれいき 延岡市大貫町 字迫嶺	452033	4079	32° 34' 04"	131° 39' 04"	980908 980916	83.1 m ²	個人住宅
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
古墳	古墳	無	無		国史跡隣接地			
所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
社ヶ原遺跡	ゆめおかし しゃがはら 延岡市稻葉崎町 宇社ヶ原	452033		32° 36' 41"	131° 40' 35"	981021 981030	180 m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
散布地	古墳	無	無		県史跡隣接地			
所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
蓬萊山善龍寺跡	ゆめおかし ようらいさん 延岡市山下町 字上ノ坊	452033	3009	32° 35' 04"	131° 40' 35"	981102 981110	48.5 m ²	公園整備
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
寺院	近世	基壇跡・階段跡・石灯籠	陶磁器・鬼瓦・瓦					
所収遺跡名	所在地	種別	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
雨下遺跡(第4次)	ゆめおかし あおりちやう 延岡市天下町 字雨下	452033	0001、4057	32° 34' 14"	131° 38' 03"	981217 981222	28.7 m ²	市道改良工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
散布地	古墳	無	無		国史跡隣接地			